

学修時間・学修行動調査（平成 29 年度前期） 分析結果

学習支援センター IR 推進室

平成 29 年 12 月 20 日

本資料は、平成 29 年 9 月 27 日から 10 月 18 日にかけて、学習支援センターIR 推進室が実施した「学修時間・学修行動調査（平成 29 年度前期）」の回答内容を分析したものである。当該調査は、平成 25 年度前期より、各期の終了後に 4 学部の 1～3 年生から学生を抽出して実施してきたが、今回より無記名のまま悉皆形式へと切り替えた。

調査はこれまで同様、質問用紙と回答用紙を配布して、記入された回答を集計する方法で行った。調査の実施に際しては、教務委員の方々に各学部での取りまとめを行っていただいた。

回答状況を表 1 に示す。薬学部 5 年生にも調査を実施したが、長期の実習を行っている時期のため回答は得られなかった。このことを含めた全在籍者数に対する回答率は、71.6%となった。

表 1 回答状況（学部・学年別）

	総合経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	学年計
1 年生	87 名	52 名	44 名	48 名	231 名
2 年生	91 名	31 名	15 名	43 名	180 名
3 年生	55 名	49 名	34 名	47 名	185 名
4 年生	25 名	34 名	12 名	56 名	127 名
5 年生				0 名	0 名
6 年生				37 名	37 名
学部計	258 名	166 名	105 名	231 名	760 名

今回の調査では、悉皆化に加えて、質問内容にも次の三つの観点に基づき改善を加えた。調査用紙を、この資料の最後に添付する。

- ◇ 「授業評価アンケート」との重複を抑えるよう、個別の科目に関する質問を削減する
- ◇ 授業時間外学修に関して、より詳細に把握するべく、学修の種別（予習、復習など）ごとに充てている時間を調査する
- ◇ 大学生活の中での体験や学修に臨む際の姿勢や態度等を調査項目に追加する

以降、それぞれの質問に対して、分析結果をまとめる。

Q3. 平成 29 年度前期の履修科目数を記入してください。

最終学年（薬学部：6 年生、他の 3 学部：4 年生）は、卒業研究や卒業論文に多くの時間をかけている

ため、それ以外の学年についてまとめたところ、平均受講数は 11.95、標準偏差は 3.69 となった。なお、学部ごとの平均と標準偏差も同様の値となった。これらの値は、昨年度までの調査とほぼ同じである。

また、学年が上がるにつれて履修科目数は減る傾向にあり、この質問の回答と学年 (Q1_2) との相関は-0.76 であった。

Q4. 「大学生活で感じていること」について、どの程度あてはまるかを選択肢から選んでください。

この質問では、本学での学修活動について、学生たちが日常的に感じていることを尋ねた。図中の配色は次の通りである。

回答内容

- : 「あてはまる」、 : 「どちらかといえば、あてはまる」、
- : 「どちらかといえば、あてはまらない」、 : 「あてはまらない」、
- : 「分からない」、 : 未回答

学修内容に関して、自分の興味・関心に合っていると回答した割合は、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた肯定的な内容が、全学で 78.8% となった。学部別では、対象とする分野が比較的明確と考えられるソフトウェア情報学部と薬学部が全学平均よりも高い傾向を示した。また、授業を受けたい教員が複数名いると回答した割合は全学で 65.5%、学部単位では薬学部が 74.0% と高い。

受けている授業の難易度については、全回答者の半数程度が「授業の内容が理解できず、ついていくのが難しい」の質問に「あてはまる」または「どちらかといえば、あてはまる」と回答した。学部別では、総合経営学部と社会学部ではこれらの割合が低めである傾向が見られた。

大学生活全般で感じている日常生活での時間的余裕に関しては、図 1 のような結果となった。Q6 での典型的な時間の使い方の結果と合わせると、薬学部の学生は授業の復習や資格取得のための学習に、総合経営学部の学生は部活動やアルバイトに時間を割いていることが、理由と考えられる。また、学年が上がると「余裕がない」という回答の割合が高まり、特に卒業研究や卒業論文が行われる 4 年次以上で 3 年次よりも数ポイント~20 数ポイント上昇する。

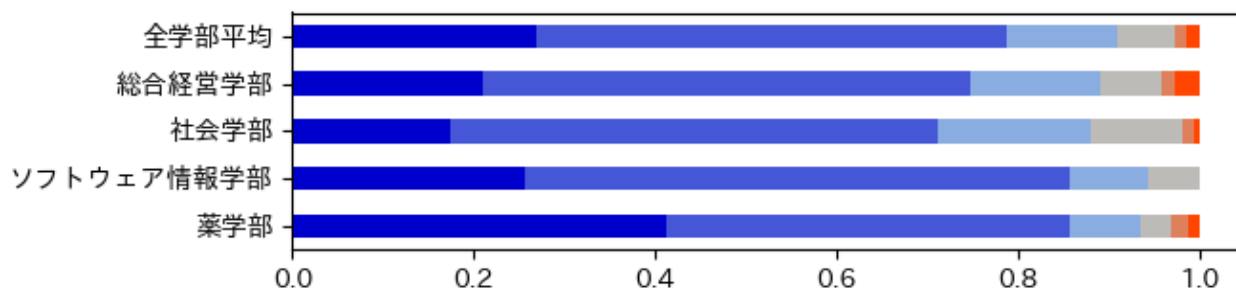


図 1 「Q4-4. 自由な時間が少なく、余裕がない」の回答分布

Q5. 「大学入学後に体験したこと」について、回数などを選択肢から選んでください。

この質問では、入学後の学内外での活動の状況を尋ねた。図中の配色は、次のようになっている。

回答内容

■ : 「2回以上」、■ : 「1回」、■ : 「これから行う予定」、■ : 「行う予定はない」、
 ■ : 「分からない」、■ : 未回答

学外での活動は、授業での体験と授業以外での地域の活動状況は、それぞれ図2と図3のようになった。図2の縦軸は、学年を表している。授業では1年次の途中でも34.2%の学生が学外イベントの参加や企業見学などを行っており、4年次または6年次（薬学部）では約半数の学生が2回以上体験している。本学では基礎スタンダード科目（全学部横断）で地域に関わる必修科目を設けており、各学部専門科目での取組みと合わせて、活動を促進していることが見てとれる。

授業以外での地域の活動は、2年生以上で複数回行っている割合が2割程度であった。学部別に見ると社会学部の割合が他学部よりも高めであった。

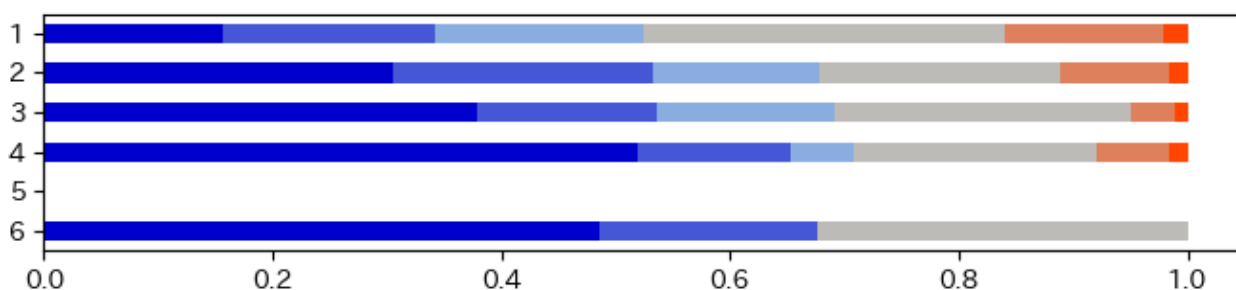


図2 「Q5-1. 授業での学外での体験（イベントへの参加、企業見学など）」の回答分布（学年別）

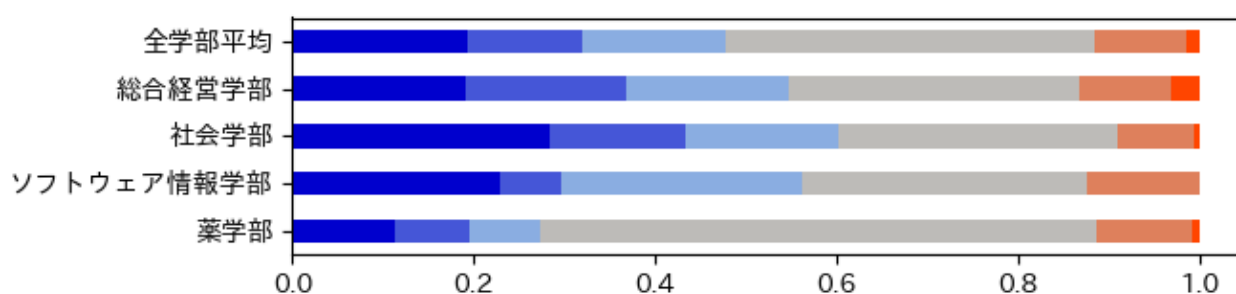


図3 「Q5-3. 授業以外での地域の活動（ボランティア活動、イベントの企画・運営など）」の回答分布

授業以外での学内行事（講演会、大学祭など）に1回以上参加している割合は57.6%、また今後参加を考えている割合は13.3%であった。Q5-4のインターンシップは「これから行う予定」の割合が1～3年次で4割程度と高いものの、実際に体験している率は4年次で25.2%となっており、支援のしくみなどを改善する余地がある。また、Q5-5の海外プログラムへの参加も、同じように「これから行う予定」の

7.2%に対して実際に体験した率は3.2%と低く、こちらも対応を強化することが考えられる。

Q6. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

この質問では、授業時間外学修の状況を中心に、一週間あたりの時間の使い方を尋ねた。図中の配色は、時間が少ない順にそれぞれ次のようになっている。Q6に関しては、回答状況を示す図を、「ゼロ（未回答を含む）の者」と「実施している者」の回答の二つに分けて示す。

回答内容

■ : 「まったくない」、 ■ : 「週 1 時間未満」、 ■ : 「週 1～3 時間未満」、
 ■ : 「週 3～5 時間未満」、 ■ : 「週 5～7 時間未満」、 ■ : 「週 7～10 時間未満」、
 ■ : 「週 10 時間以上」、 ■ : 未回答

ゼミ活動や研究室での研究活動にかかる時間は、ソフトウェア情報学部が多く、薬学部は少ない結果となった（図4）。

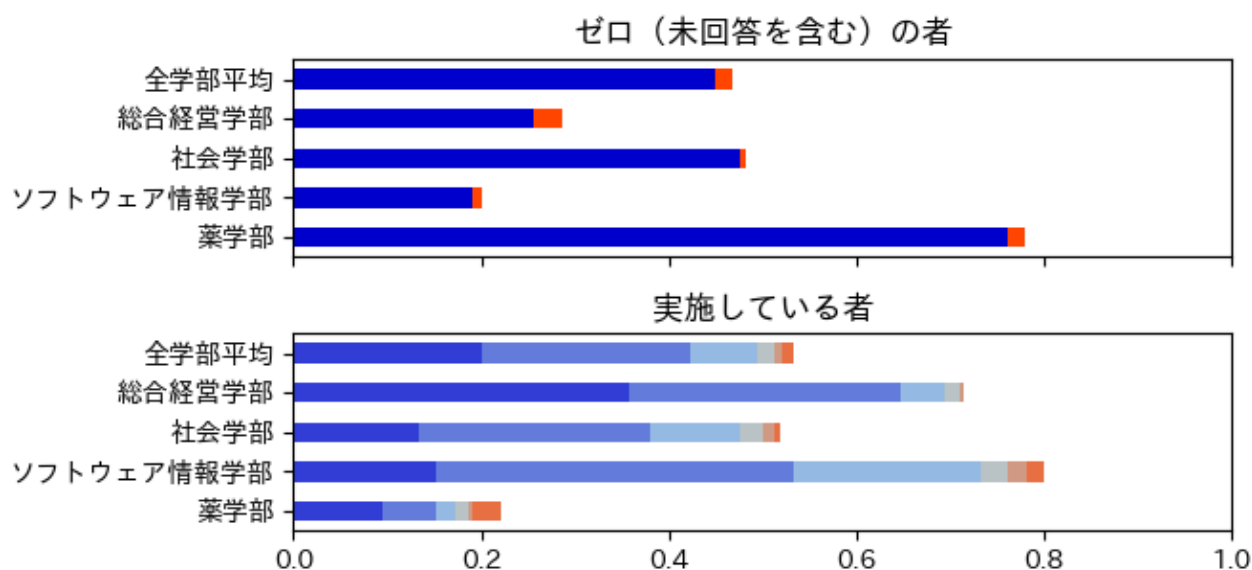


図4 「Q6-1. ゼミ活動、研究室での研究活動」の回答分布

授業の予習と復習に書ける時間は、図5や図6のような状況であった。全体的には、予習にかかる時間よりも復習にかかる時間が多い。とくに薬学部ではほぼすべての学生が日常的に復習を行っており、かけている時間が長い学生も一定数いることが分かる。

昨年度の学修時間・学修行動調査（抽出形式、1～3年生対象）では、学修行動の内容と授業時間外学修時間を別々に調べており、直接的には比較できないものの、「予習は復習よりも行っている割合が少ない」、「予習時間は2年生になると少なくなる」といった共通点が見られる。

なお、Q6-2とQ6-3の回答はそれぞれ離散的であるが、これらの間には0.53とゆるやかな相関が見ら

れた。

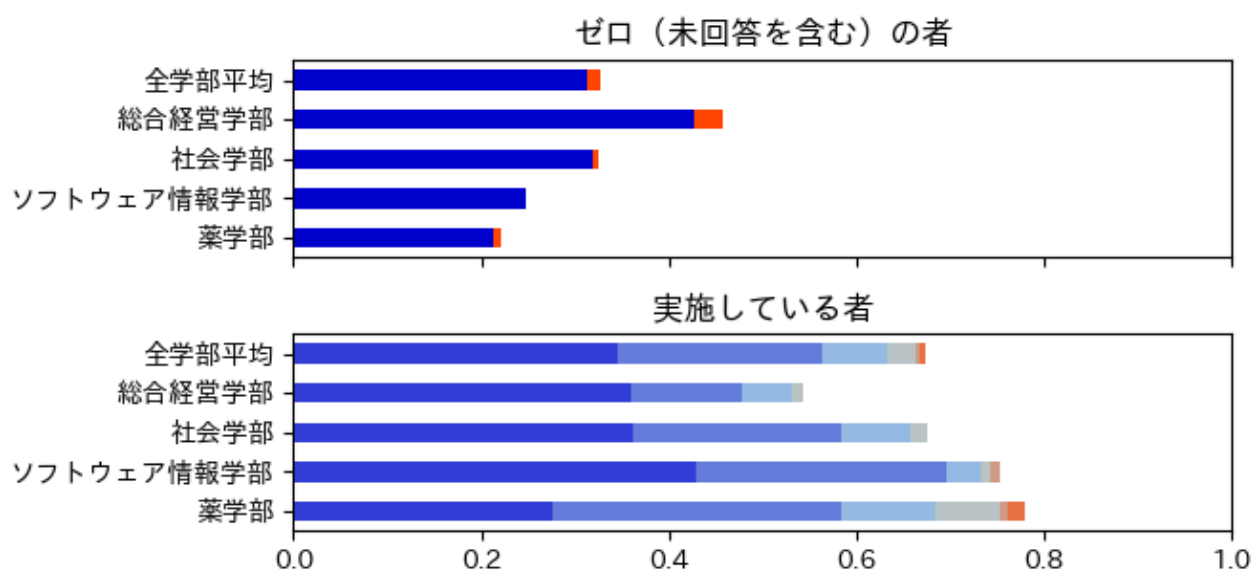


図5 「Q6-2. 授業の予習」の回答分布

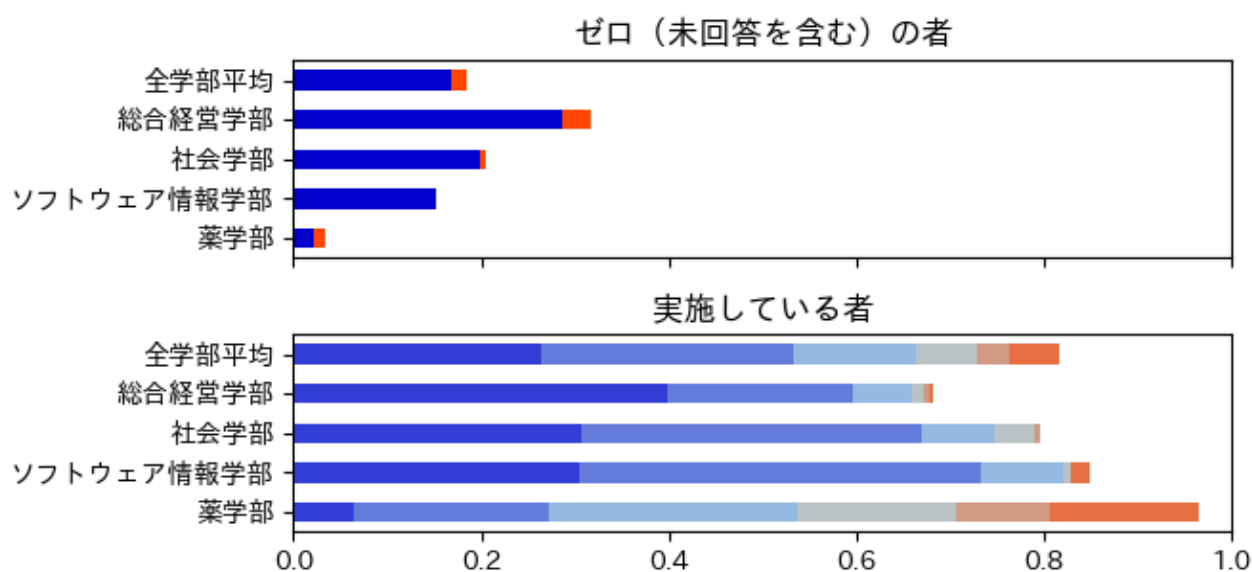


図6 「Q6-3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）」の回答分布

予習や復習と別の資格取得のためなどの自主的な勉強時間は図7のようになった。全学では57.2%の学生が、何らかの自主的な勉強を行っている。学年別には、1年次：46.8%、2年次：57.2%、3年次：69.2%と、何らかの勉強を行っている率は10ポイント強ずつ増えているが、4年次：55.9%と減少している。

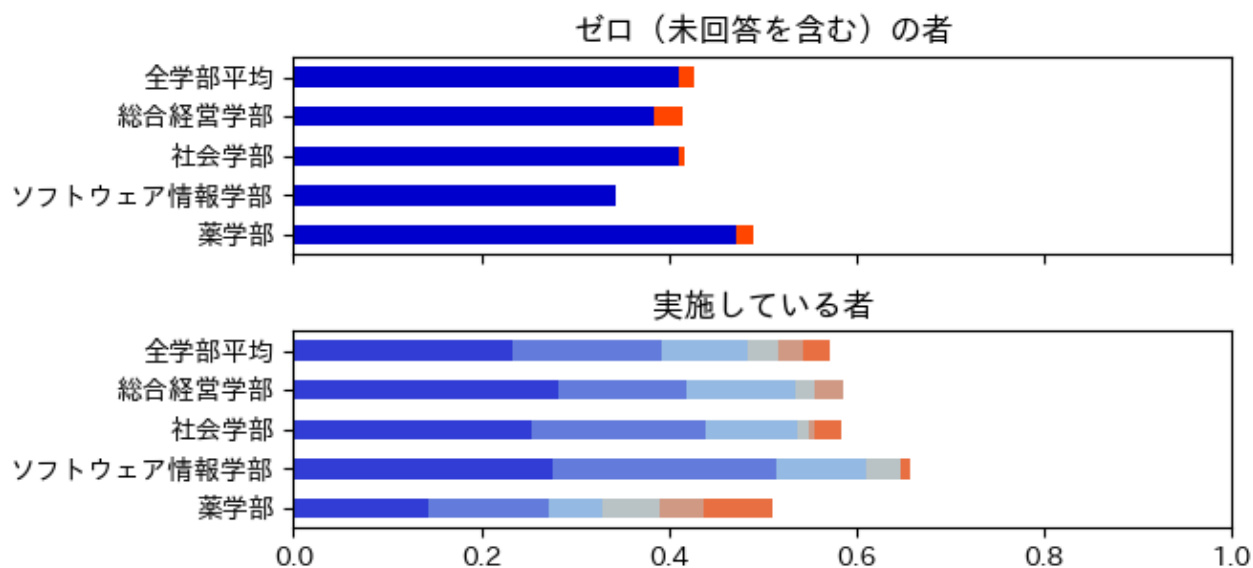


図7 「Q6-4. 資格取得のためなどの自主的な勉強」の回答分布

部活動・サークル活動にかける時間は、総合経営学部がもっとも多く、次いで社会学部、ソフトウェア情報学部の順となっている。週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部:51.5%、社会学部:32.5%、ソフトウェア情報学部:16.2%、薬学部:6.9%である。これらの値は3年生以降には急速に減少している。

大学外でのアルバイトや仕事にかける時間も、同様の傾向が見られた。週に5時間以上かけている割合は、総合経営学部:36.4%、社会学部:33.7%、ソフトウェア情報学部:30.5%、薬学部:13.0%であった。一方、これを行っていない割合は、もっとも多い薬学部で74.9%、もっとも少ない総合経営学部で53.2%である。学年別では2年次にアルバイトや仕事を行う時間の増加が見られた。

なお、アルバイトや仕事にかける時間の回答は、他のどの質問とも相関は見られなかった。

Q7. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。

この質問では、大学生活を、授業に取り組む意識(Q7-1~Q7-3)、主体的な学習(Q7-4~Q7-6)、授業時の教員の姿勢(Q7-7~Q7-11)、授業時間外の学修(Q7-12~Q7-14)、学生支援の状況(Q7-15~Q7-19)の五つに分けて、意識や状況を尋ねた。

図中の配色は、次のようになっている。

回答内容

: 「日常的にある」、
 : 「ときどきある」、
 : 「ほとんどない」、
 : 「まったくない」、
 : 「分からない」、
 : 未回答

授業に取り組む意識に関しては、「Q7-1. 正当な理由なく、授業を欠席する」ことが日常的にあると回答した学生は2.9%と、割合は少ないものの居ることが分かった。「Q7-2. 授業中は、集中して取り組む」や「Q7-3. なるべく良い成績を取るようになっている」についても、日常的あるいはときどきあるという回答が9割程度であった一方、まったくないと回答した学生も2.0%ほど見られた。

次に、主体的な学習に関する三つの質問では、授業時にグループワークや議論に積極的に参加すると回答した学生は71.1%であり、学部間の差はあまり見られなかった（図8）。

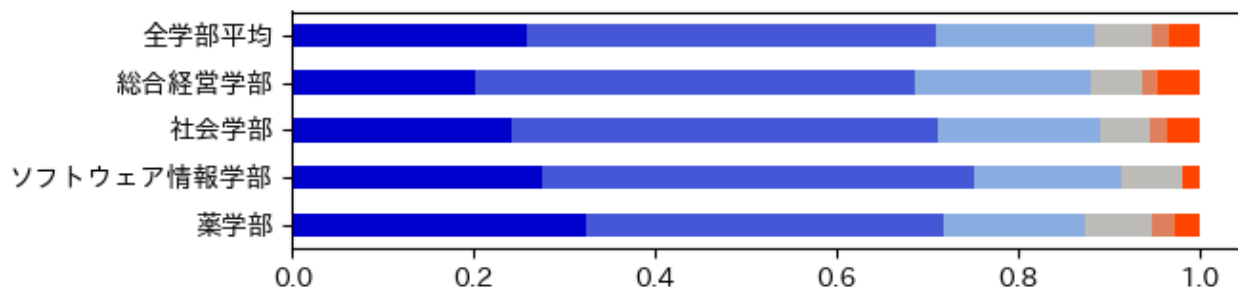


図8 「Q7-4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようにしている」の回答分布

授業で疑問が生じた際に、周りへの質問あるいは書籍やネット検索を行うことについての回答分布は、図9と図10のような結果となった。どちらも総合経営学部が少なく薬学部がもっとも多いが、学部間の差異は書籍やネット検索を行うという回答の方が大きい。

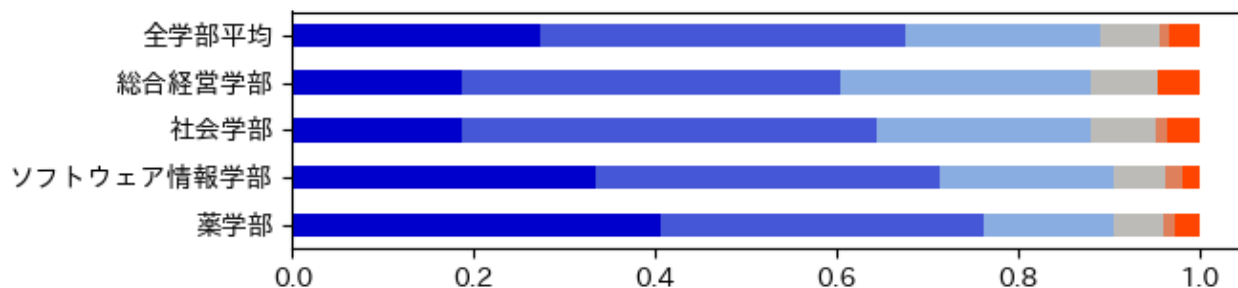


図9 「Q7-5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようにしている」の回答分布

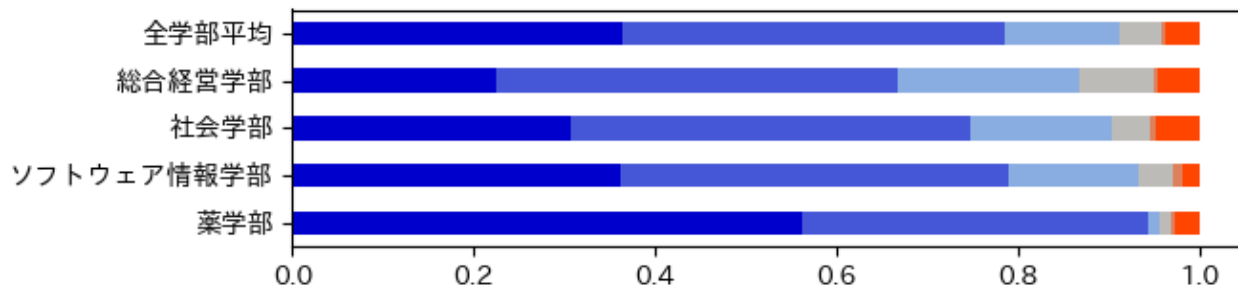


図10 「Q7-6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようにしている」の回答分布

授業時の教員の姿勢に関する六つの質問（Q7-7～Q7-11）では、「Q7-7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる」では、60.1%の学生が「日常的にある」または「ときどきある」と回答し、この割合は学年が上がるにつれ、少しずつ増える傾向が見られた。

「Q7-8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある」と「Q7-9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある」については、「日常的にある」と「ときどきある」の合計は、前者が41.4%、後者が62.2%であった。なお、これらの割合は学年間ではとくに違いが見られず、学部間では前者では薬学部が24.2%と低く、後者では社会学部が70.5%と高めであった。

「Q7-10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する」では、「日常的にある」と「ときどきある」の合計が46.4%であり、学部間の差異は数ポイント程度であった。「Q7-11. 休講などで授業の予定が変更される」では、「日常的にある」が11.8%、「ときどきある」が57.8%と高い傾向が見られた。とくに薬学部では前者が24.2%と他学部より16～22ポイントも高い結果となり、Q8の回答でもこのことに対する意見が複数寄せられた。

授業時間外の学修に関する三つの質問（Q7-12～Q7-14）に関しては、自習室や教室などの学内スペースの利用状況は、図11のようになった。Q6-2～Q6-4で授業時間外学修の時間が多かった薬学部が他学部よりも突出しており、次いで研究室や演習室のコンピュータやネットワークを使用するソフトウェア情報学部が多い結果となった。

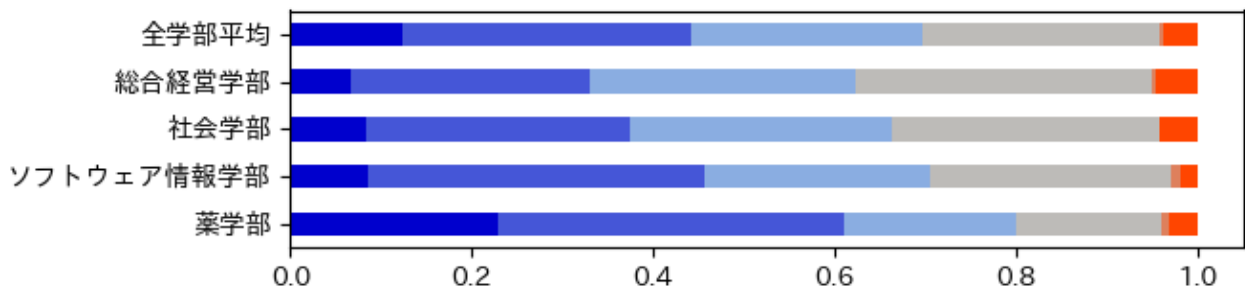


図11 「Q7-12. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する」の回答分布

「Q7-13. 授業時間外の学修のために、インターネット上の情報を調べる」は、Q7-6と同様の質問であり、回答もQ7-6と同じような傾向となった。また、「Q7-14. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」は、Q7-12と関連した質問であり、こちらもQ7-12と同様の回答分布となった（図12）。

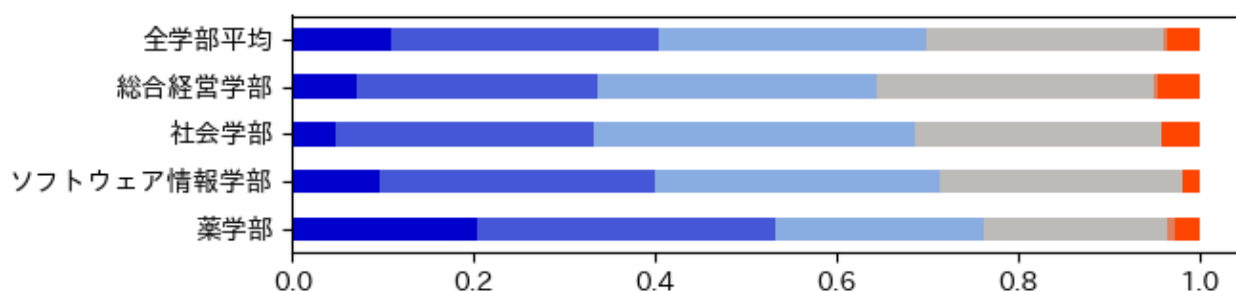


図 12 「Q7-14. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する」の回答分布

学生支援の状況に関する五つの質問（Q7-15～Q7-19）に関しては、他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる学生は、上記の図 12 と同様の分布となった。学年間の違いもあまり見られず、初年次に築いた関係がそのまま引き継がれていると考えられる。

学業の面や人間関係などの学生生活全般で困ることが生じている状況は、図 13 と図 14 のようになった。学部別ではどちらも薬学部が高めである。また、学年別ではとくに学生生活全般について 3 年次から「日常的にある」と「ときどきある」の割合がどちらも増えている。

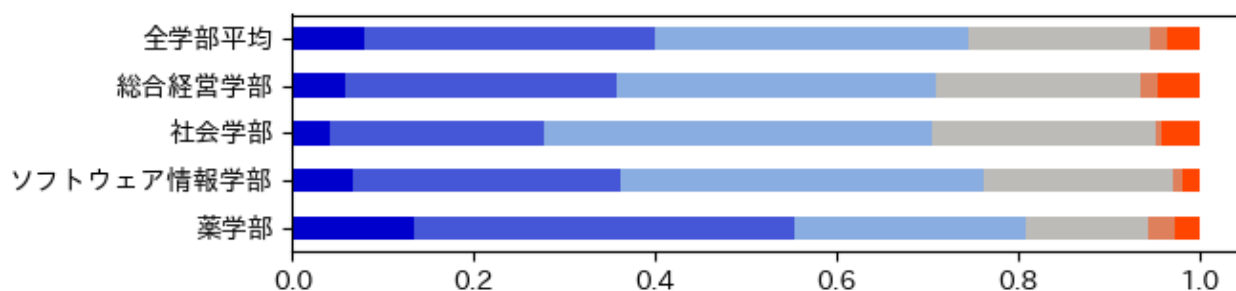


図 13 「Q7-16. 授業時間や授業時間外の学修など、学業の面で困ることがある」の回答分布

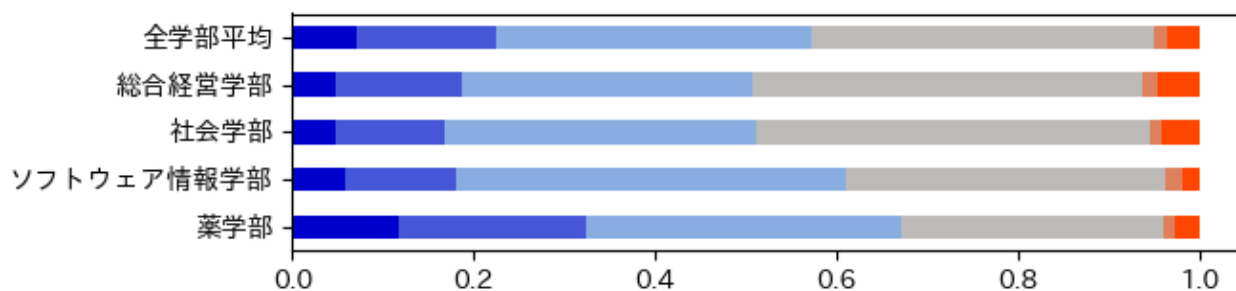


図 14 「Q7-17. 人間関係など、学生生活で困ることがある」の回答分布

こうした状況に対して、教員・職員に相談したり、学習支援サービスを利用したりする状況は、図 15 と図 16 のようになった。Q7-16 や Q7-17 の回答に照らすと、学業（Q7-16）と学生生活（Q7-17）のいずれかで「日常的にある」または「ときどきある」と回答したうち、教職員への相談（Q7-18）や学習支

援サービス（Q7-19）のいずれかに「日常的にある」または「ときどきある」と回答した割合は、社会学部と総合経営学部が半数程度、ソフトウェア情報学部と薬学部は4割程度であった。また学習支援サービスの利用に関しては、若干敷居が高いためか、図13や図14に対する利用割合は低い状況となっている。この中で、学部／学年別では、薬学部の1年生と2年生で学習支援サービスの利用割合の方が高い結果となり、薬学教育センターで行われている学生対応が、効果を示し始めていると考えられる。

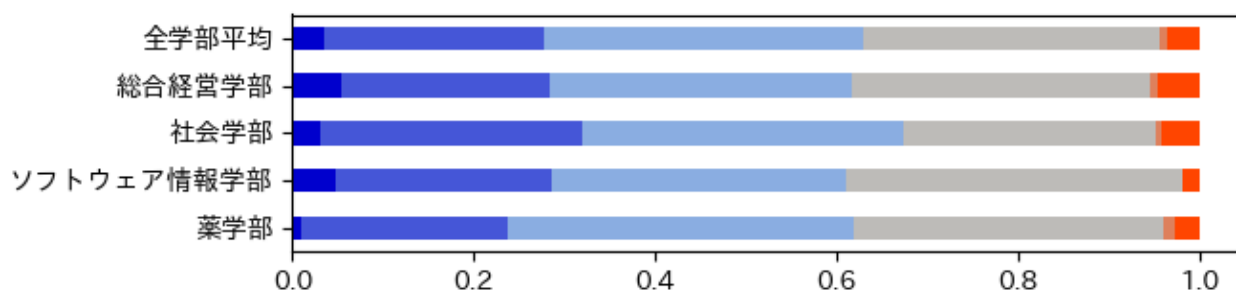


図15 「Q7-18. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する」の回答分布

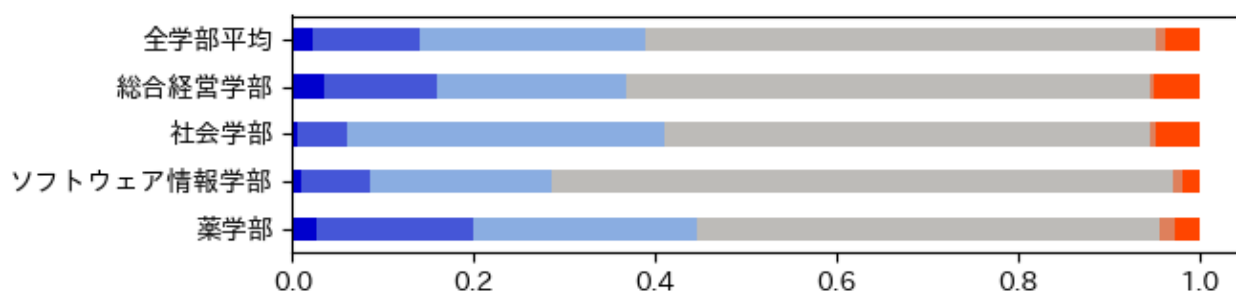


図16 「Q7-19. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する」の回答分布

Q8. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください

この質問に対しては、課題と考えられる点や改善意見など、次の事柄に対する合わせて195件の意見が出された。以下に分類とそれぞれの主な内容をまとめる。

- 授業の方法や内容など
 - 授業内での議論やグループワーク、授業のレベル設定、教員ごとの違い、授業中の私語、休講や補講などの授業変更
- 学生支援
 - キャリア支援、学外での活動、教員・職員の接し方、掲示の方法や内容、本調査などで提案した意見の扱い
- 施設・設備
 - 建物や教室・演習室の利用可能時間、演習室やアクティブ・ラーニング教室、授業外学修を行う環境、ネットワーク環境、冷暖房の環境

- 部活動
 - 部活動にかかる時間、施設の利用
- その他
 - 新入生オリエンテーション、大学祭などの学内イベント

これらの内容は、昨年度までの学修時間・学修行動調査と同様のものも多い。寄せられた回答は、個人が特定されないようにした上で、内容を整理して学内で共有し、学内各組織で対応を検討する計画である。

平成 29 年度前期 「学修時間・学修行動調査」

教務委員会、学習支援センター IR 推進室

この調査は、皆さんに日常の学び方について回答してもらい、現状を確認するとともに今後の本学の教育活動を改善させることを目的として実施するものです。調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

平成 29 年度前期の状況について、以下の Q 1 から Q 8 までの質問への回答を回答用紙に記入してください。

個人の回答を公表することはありません。回答全体を集計・分析した結果は、本学 Web ページで公開するとともに、教育活動の検証・改善に用います。調査に関して疑問や質問がある場合は、担当の**もしくは事務局教務・学生課の**までお問い合わせください。

Q 1. 回答用紙のあなたの所属学部に○をつけ、学年を記入してください。

Q 2. あなたの性別に○をつけてください。

Q 3. 平成 29 年度前期の履修科目数を記入してください。

Q 4. 「大学生活で感じていること」について、どの程度あてはまるかを選択肢から選んでください。

Q 4 - 1. 学科・コースの学びが、自分の興味・関心に合っている

Q 4 - 2. 授業を受けたいと思う教員が何名かいる

Q 4 - 3. 授業の内容が理解しきれず、ついていくのが難しい

Q 4 - 4. 自由な時間が少なく、余裕がない

Q 5. 「大学入学後に体験したこと」について、回数などを選択肢から選んでください。

Q 5 - 1. 授業での学外での体験（イベントへの参加、企業見学など）

Q 5 - 2. 授業以外での学内行事への参加（講演会、大学祭など）

Q 5 - 3. 授業以外での地域の活動（ボランティア活動、イベントの企画・運営など）

Q 5 - 4. インターンシップ（就業体験）

Q 5 - 5. 海外プログラム（留学など）

Q 6. 「典型的な一週間あたりの時間の使い方」について、以下のそれぞれの活動にかけている時間を選択肢から選んでください。

Q 6 - 1. ゼミ活動、研究室での研究活動

Q 6 - 2. 授業の予習

Q 6 - 3. 授業の復習（宿題や課題を行う時間を含めて）

Q 6 - 4. 資格取得のためなどの自主的な勉強

Q 6 - 5. 部活動・サークル活動

Q 6 - 6. 大学外でのアルバイトや仕事

Q 7. 「授業への参加や大学生活全般」について、以下のそれぞれの機会や状況がどの程度起きているかを、選択肢から選んでください。

- Q 7-1. 正当な理由なく、授業を欠席する
- Q 7-2. 授業中は、集中して取り組む
- Q 7-3. なるべく良い成績を取るようになっている
- Q 7-4. 授業内でのグループワークや議論に積極的に参加するようになっている
- Q 7-5. 授業で疑問が生じたときには、教員や友人に質問するようになっている
- Q 7-6. 授業で疑問が生じたときには、書籍やネット検索で調べるようになっている
- Q 7-7. 授業時に、教員が内容や教え方を工夫していると感じる
- Q 7-8. 授業中に、自分の意見や考えを述べる機会がある
- Q 7-9. 授業の中で、グループワークを行う機会がある
- Q 7-10. 自分が提出した課題などに、教員が添削やコメントを付けて返却する
- Q 7-11. 休講などで授業の予定が変更される
- Q 7-12. 授業時間外の学修のために、自習室や教室などの学内スペースを利用する
- Q 7-13. 授業時間外の学修のために、インターネット上の情報を調べる
- Q 7-14. 授業時間外の学修のために、他の学生といっしょに勉強する
- Q 7-15. 他の学生や教員・職員と SNS を利用してコミュニケーションをとる
- Q 7-16. 授業時間や授業時間外の学修など、学業の面で困ることがある
- Q 7-17. 人間関係など、学生生活で困ることがある
- Q 7-18. 勉学や進路など、学生生活について、教員や職員に相談する
- Q 7-19. 学習支援サービス（オフィスアワー、学習相談窓口など）を利用する

Q 8. 学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。